

## 令和6年度第2回青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会会議概要

- 1 開催日時 令和6年8月21日（水） 18時30分～19時50分
- 2 開催場所 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ） 3階 大会議室
- 3 出席委員 天間美由紀委員、佐藤洋子委員、大友啓文委員、  
北山麻里委員、木津谷春樹委員、町田徳子委員、  
佐藤正委員、舘山尚委員  
《計8名》
- 4 欠席委員 清水和秀委員、居石淳子委員
- 5 事務局 福祉部長 岸田耕司  
福祉部次長 白戸高史  
子育て支援課長 泉澤豊  
子育て支援課副参事 向中野葉子  
主幹 細田賢、坂本亮、石澤望美、小豆畑洋、花田和俊  
主事 佐藤桃香  
保健部あおもり親子はぐくみプラザ 所長 斉藤麻里  
《計11名》
- 6 会議次第
  - 1 開会
  - 2 福祉部長あいさつ
  - 3 議事  
「(仮称)青森市こども計画(素案)」について
  - 4 閉会

## 7 会議概要

### 3 議事

「(仮称) 青森市こども計画 (素案)」について

事務局から資料1、資料2について説明

質疑・意見

- 委員 青森市こども計画の素案を考えるにあたっては、今日が最後の会議になるのか。
- 事務局 そのようになるが、会議の後でも、気づいた点等があれば随時事務局に連絡していただければ、その都度検討していく。
- 委員 従来の「青森市子ども総合プラン」から、国のこども大綱を踏まえた「青森市こども計画」と計画の名称を変えたことは、とても良いと思う。
- 委員 アンケート調査結果では、こどもの遊び場やこどもの体験活動の充実を望む声が上位にある。障がいのあるこどももいないこどもも一緒に遊べる「インクルーシブ遊具」の設置を検討することももちろんだが、仙台市が実施しているプレーパークのような、障がいのあるこどももいないこどもも一緒に遊べる機会を提供するような取組を青森市でも実施してはどうか。
- 事務局 こどもたちが外で過ごし、自分の体を使い、多様な感覚を用いて、異なる年齢の方たちと多様な遊びをすることは、こどもの心身の成長においても多くのメリットがあると考えている。  
この点を念頭に置きながら、地域資源を生かした交流・体験型遊び場の創出について検討していく。
- 委員 令和6年7月から供用開始している青森市総合体育館のキッズルームは、青森市のこどもたちが交流する場にもなっており、素晴らしい施設だと感じている。
- 委員 医療的ケア児への支援は、各自治体によって格差があるため、先進的な取組をしている他市に少しでも近づくよう検討していただきたい。
- 委員 こども大綱の中では「ウェルビーイング」というものが要になっているため、青森市においても、みんながそれぞれ幸せだと思えるような状況を作れるよう支援をしていくことが今後必要だと思う。

- 委員 2歳児クラスの保育料無償化に踏み切っていただき感謝している。  
3号認定の保育料無償化についても検討していただきたい。
- 委員 少子化が一番大きな問題であるため、青森市こども計画の中でも、少子化対策について記載してはどうか。
- 事務局 本市としては、青森市こども計画（素案）に記載している取組を推進することで、こどもを生き育てやすい環境を整備していきたいと考えている。  
また、こどもを生き育てやすい環境の整備にあたっては、こども・子育て支援に係る所管部の垣根を越えて検討していく必要があると考えていることから、今回から新たに、副市長をトップとした内部の検討体制の構築についても計画に盛り込んでおり、体制構築に向け今後検討していく。
- 委員 子育て家庭のニーズを汲み上げるには、妊娠・出産時に、対象の家庭に出向き、どのような支援が必要なのかを聞き取ることが効果的なのではないか。  
また、出産してから子の青年期まで、さらに次の妊娠まで切れ目なく支援する施設などがあればいいと思うが、そういうことは考えているのか。
- 事務局 あおもり親子はぐくみプラザでは、母子健康手帳交付の際に、保健師や助産師が全ての妊婦と面接しており、出産後には、全ての家庭に訪問し相談支援等を実施している。  
また、あおもり親子はぐくみプラザでは、令和2年度の開設時から児童福祉と母子保健を一体的に行っており、令和6年4月からは当該施設に統括支援員を配置し、「こども家庭センター」として稼働している。
- 委員 ゲームやスマホなどの依存症の人が増えていると聞いたことがある。こうした依存症への対策も計画に盛り込んではどうか。
- 事務局 ゲームやスマホなどの依存症への対策については、青森市こども計画（素案）の「I-7 こども・若者の自殺対策、犯罪などからこども・若者を守る取組」に、「インターネット空間の監視及び情報モラルに関する出前講座の実施」と記載のあるとおり、教育委員会において、児童生徒や保護者及び地域住民等を対象に、デジタルシティズンシップ等の出前講座を実施しており、講座等において、家庭における有害情報への対応方法や、ネット利用に関するルールづくり等についても啓発を図っている。
- 委員 発達障がいの子ども本人への支援だけではなく、家族への支援として、ペアレントトレーニング等を青森市でも導入できれば、支援をさらに充実させることができると思う。

- 委員 青森市は、療育を受けるための受給者証申請に必要な意見書を書くことができるのは医師のみとしているため、医療機関の受診だけで時間を要してしまう。他市のように、意見書を、医師だけでなく、保健師や心理士も書けるようにすれば、よりスムーズに療育につなげられると思う。
- 委員 早期に発達障がい等を発見し、早期に療育等につなぐことができれば、将来的に医師の受診数を減らすことができるため、5歳児健診を導入してはどうか。
- 事務局 5歳児健診については、マンパワーの確保等の課題があることから、実施については検討していく。
- 委員 家庭教育支援については、現在、教育委員会と市PTA連合会が連携し、保護者と教職員が一緒に研修する場を設けている。このような取組も計画に盛り込んでどうか。
- 事務局 教育委員会と協議し、当該取組の記載について検討する。

事務局から資料3について説明

質疑・意見

- 委員 青森市子ども会議の所管課はどこか。
- 事務局 福祉部子育て支援課である。